実習内容
ならびに
スケジュール

感染制御部

曜日	時間	内容	担当	集合時間	集合場所
月					
火					
水	9:00-10:00 10:00-12:30 13:30-15:30 15:30-17:00	ICUにて抗菌薬カンファレンス 感染症・抗菌薬講義 昼食 回診・症例提示 講義・感染予防策実習	中嶋・植田 中嶋・大谷 中嶋・植田 中嶋	9:00 10:00 13:30 15:30	急性期センター・ICU前 1号館5階・感染制御部 1号館5階・感染制御部 1号館5階・感染制御部
木					
金					

◎　診療科名：　感染制御学

◎　責任者氏名：　中嶋　一彦　准教授

◎　指導教員氏名：　中嶋　一彦　准教授

◎　実習概要

　1.カンファランス、2.病棟回診　3.クルズス　4.感染制御の実際の見学　5.グラム染色、抗酸性染色、培養検査データ、血液検査データ、画像所見の読み方
これらを理解することにより、感染症の診断と治療方針、適正な抗菌薬の使用方法、院内感染対策の習得を目指す。

◎　各診療科における到達すべき学修成果（アウトカム）

（臨床実習の授業概要「到達目標（アウトカム）」に準拠する）

・感染性疾患を有する患者の病態について理解している。
・グラム染色により予測される病原菌を想定できる。
・想定される感染症に応じた検査の選択ができる。
・感染症に関連する基本的な検査データを正しく解釈できる。
・抗菌薬の TDM の原理と利用方法、目標値を理解している。
・病態、原因菌、抗菌薬の特性に応じた抗菌薬選択ができる。
・微生物に応じた伝播様式と、感染対策を行うことができる。

◎　事前学修内容(時間)

・耐性菌、抗菌薬の種類、特性について講義テキスト、成書を読んでくること。

◎　評価方法

（知識、技能、態度についてS、A、B、Cで評価。評価基準をルーブリックで明示）。

	S	A	B	C
知識	感染症の病態、検査、治療を十分に理解し、診断治療までの方策を自分で立案することができる。	感染症の病態、検査、治療について最低限の理解が得られている。	感染症の病態、検査、治療について理解が不十分であり、実臨床でも錯誤を来すおそれのある状態。	クルズスなどで得た病態、検査法、治療に関しても知識を理解できておらず、レポートなどでも理解への取り組みがみられない。
	レポート等で理解が行われていることが示されている。	診断治療までの方策を自分で立案することはできないが、教員のサポートによりこれらが行うことができる。	レポートにても感染症の病態、治療など誤りが著しい。	レポートを提出しない。
	他者への解説、指導ができる。	レポート等で理解する努力が行われている。		
技術	評価項目なし	評価項目なし	評価項目なし	評価項目なし
態度	自ら質問や疑問点を見いだし、それらに対し積極的な問題解決を行う。	提示された疑問点や質問に対しては積極的な問題解決を行う。	受け身的な学習態度であり、質問や疑問点にも積極的な問題解決を行わない。	居眠りや、質問へ返答しないなど学習への取り組み態度が不良である

◎　パフォーマンス評価

実習中以下の評価を行う。
クルズス、回診の際、適宜質問を行い感染症に関する知識の確認、理解度をはかる。
症例レポートによる担当患者の病態、検査法、治療についての理解度をはかる。

◎　中間評価とフィードバック

なし。

◎　注意事項

・９時までに急性期センター３階 ICU 前に集合すること（時間厳守）